

高知くらしの護身術

171

電源プラグの事故

差しっ放しに注意

(2010年6月1日掲載原稿)

長い間、コンセントからプラグを抜いていないエアコン、テレビ、冷蔵庫、換気扇などはありませんか。

電源プラグとコンセントのすき間にほこりがたまることで、プラグの刃と刃の間に電流が流れるトラッキング現象が起き、発煙、発火となる可能性があります。プラグが差しっ放しになっている家電製品があったら、プラグの刃と刃の間を乾いた布でふくなどの手入れをしてください。

日頃便利に使っている家電製品のプラグやコード、延長コードの誤った取り扱いを挙げてみます。

- ①コードが家具など重い物の下敷きになっている
- ②コードを踏みつけ、挟んだり、引っ掛けたりしている
- ③くぎなどで固定している
- ④コードを引っ張ってプラグを抜いている
- ⑤プラグを根元まで確実に差し込んでいない
- ⑥プラグを根元まで差し込んだとき、緩くなっている
- ⑦コードを巻いたり、束ねている
- ⑧たこ足配線でコンセントや延長コードの定格電流を超えている
- ⑨プラグにほこりやごみが付いている
- ⑩プラグの刃が変形し、左右斜めから差し込んでいる
- ⑪ぬれた手でプラグを抜き差ししている

—このような使い方は火災や感電の原因になります。電源コードやプラグは定期的
に手入れや点検をしましょう。

また、使用を中止するべき症状を列挙します。

- ①コードやプラグが触れないほど熱い
- ②傷、変形、膨れがある
- ③コードに触れるとビリビリ電気を感じる
- ④コードに触れたり、折り曲げると、電気が入ったり切れたりする

—こんな場合はすぐに家電メーカーや購入店に相談しましょう。